

平成20年度野幌プロジェクトフォローアップ委員会  
議事次第

平成21年3月13日(金)  
江別市野幌公民館

- 1 開会
- 2 北海道森林管理局計画部長挨拶
- 3 議事
  - (1) 平成20年度の取り組み実績について
  - (2) 平成21年度の取り組み予定について
  - (3) その他
- 4 閉会

# 野幌プロジェクトフォローアップ委員会出席者名簿

(平成21年3月13日)

## ○委員

- 五十嵐 恒夫 (委員長：北海道大学名誉教授)  
五十嵐 敏文 (フォーラム野幌の森代表)  
岩田 勝 (江別市野幌自治会会長)  
岡崎 朱美 (環境カウンセラー(市民部門))  
角館 盛雄 (北の森21運動の会会長)  
工藤 正義 (江別市立野幌小学校校長)  
高橋 邦秀 (副委員長：北海道大学名誉教授)  
橋場 一行 (日本樹木医会北海道支部長)  
宮本 英樹 (NPO 法人ねおす専務理事)  
村野 紀雄 (酪農学園大学環境システム学部教授)

～五十音順～

## ○オブザーバー

- 高石 邦彦 (北海道空知森づくりセンター主幹)  
清野 実 (北海道自然環境課野幌森林公園分室主幹)

## ○北海道森林管理局

- 安樂 勝彦 (計画部長)  
宮崎 英伸 (指導普及課長)  
坂田 康治 (企画官(自然再生))  
瀬戸口 満 (石狩森林管理署長)  
荻原 裕 (石狩地域森林環境保全ふれあいセンター所長)

ほか

「野幌プロジェクト」

# 平成20年度の取り組みと今後の課題

北海道森林管理局

# 1 野幌プロジェクトの概要

## (1) 目標

平成16年の台風により風倒被害を受けた「野幌の森」において、「百年前の原始性が感じられる自然林」を再生

## (2) 目標達成方法

- ①天然林被害地は、自然の推移に委ねる
- ②人工林被害地は、人手をかけて再生させる
- ③再生活動への市民参加の積極的推進
- ④再生活動地を含む「野幌の森」の科学的なモニタリングとそのフィードバック
- ⑤生物多様性保全のために行う一部人工林の自然林化

## (3) 学識経験者、地元関係者等による検討と評価

- ①野幌プロジェクトフォローアップ委員会
- ②野幌自然環境モニタリング検討会



(平成16年の風倒被害直後の様子)

## ○風倒被害地の再生スキーム別実施面積

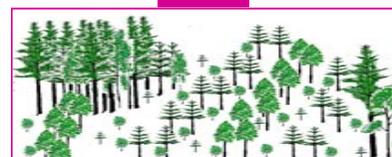
区分	面積 (ha)
市民参加型植樹	18.00
みんなで森林づくり	2.76
団体型森林づくり	14.72
野幌森林づくり塾	0.52
森林管理署による植樹	15.65
自然の推移	36.31
調査研究の場 (自然の推移)	2.17
合計	72.13

注：団体型森林づくりの面積には、植栽する代わりに天然生地樹の刈出し作業を実施している面積を含む。

## ○人手をかけた自然林再生イメージ



(当初)  
郷土樹種を最小限の本数だけ植栽



(数年後)  
自然に生えてきた樹木も一緒に育成



(将来)  
百年前の原始性が感じられる森

## 2 森林再生活動

### (1) 「みんなで森林づくり」

一般市民が一人でも気軽に参加できる再生活動

- ①平成20年度は、下刈りイベント「10連発」
- ・6月19日から7月10日までに10回実施
  - ・一般公募による市民参加はのべ73名
  - ・天然更新稚樹の誤刈を防ぐため、テープによる印付け
  - ・NPO法人「ねおす」と連携し、簡易な自然観察を組み合わせ実施

②参加者ほぼ全員が、下刈り作業そのものに興味を持って参加。

③来年度は、森づくり経験の豊かなボランティア団体と連携し、1日あたりの作業時間や1回あたりの参加者を増やす考え。

### (2) 「団体型森林づくり」

森林再生の方向を守りつつ、各団体の自主性を生かして行う森づくり活動

- ①活動量は団体によって大きく異なるものの、下刈り等の保育作業は全団体が実施。

### ○「みんなで森林づくり」の実施風景



(完全装備での下刈り作業)

### ○「団体型森林づくり」の実施風景



(子供たちも参加した生育調査：  
樹木コンサルタント)

(ニセアカシア伐採木を利用した  
ミニ苗畑：野幌森クラブ)



②参加12団体相互の情報交換、団体と国有林等関係機関との意見交換等の場として、2月、野幌森林再生活動連絡会を開催

今年度の議題

- 1 各団体の活動状況報告
- 2 連絡事項
- 3 話題提供
  - (1)ニセアカシア母樹伐採結果
  - (2)旧野幌試験林の現状
- 4 意見交換



【参加団体から出された主な意見】

- ・森づくりの先例である旧野幌試験林の現状をもっと教えてほしい。また、旧試験林の今後の扱いを教えてほしい。
- ・天然更新稚樹を調べたところ、ヤチダモやカツラが多く、自分たちの樹種選択は間違っていなかったことを実感した。
- ・植栽木の枯損後は補植をしているが、育てやすい樹種ばかりに偏ることを懸念。指導がほしい。
- ・目指す森はすぐにはできないので、しばらくは自然に任せることが必要ではないか。
- ・平地林である野幌は、人手をしっかりとかけて再生すべき。何らかの区域分けが必要と思う。
- ・12団体の再生方法は異なっても良いと思う。モニタリングを続けながら、10年単位ぐらいで見直せばよい。

③各団体と石狩森林管理署との協定が来年度末(平成22年3月)で期間終了となることから、今後、協定期間の延長について各団体と調整していく考え。

○「団体型森林づくり」の活動内容

	団体名	再生活動 実施面積	今年度の 主な活動内容
1	NPO法人 森林遊びサポートセンター	0.53 ha	下刈、生育調査、天然更新調査
2	北の森21運動の会	4.16	防鹿柵、補植、下刈、ニセアカシア除伐、被害調査
3	NPO法人 北海道森林ボランティア協会	1.87	下刈 植生調査
4	社団法人 北海道トラック協会	0.85	下刈、生育調査
5	北海道ガス株式会社	2.42	生育調査、補植、下刈
6	野幌森クラブ	0.21	観察会、下刈、生育調査、苗木づくり、補植
7	札幌もいわライオンズクラブ	0.38	下刈
8	レディースネットワーク21	0.62	下刈
9	有限会社 樹木コンサルタント	0.38	下刈、生育調査
10	NPO法人 シーズネット	0.20	下刈
11	NPO法人 EnVision環境保全事務所	0.45	生育調査、下刈、勉強会
12	酪農学園大学環境システム学部	2.65	植生調査、補植、刈出し、ネズミ等調査



#### (4) 森林管理署による森林再生

- ①歩道等から離れていることにより市民参加による森林再生活動が困難な風倒被害箇所において実施。
- ②植栽樹種だけでなく、残し幅に多量に発生している天然更新稚樹を生かした森づくりを行っていく考え。

#### (5) 外来種対策

##### 【ニセアカシア】

- ①一部の再生活動地では、ニセアカシア(要注意外来種)の稚樹が繁茂し、自生種による森林づくりが阻害される恐れがあったことから、昨年3月、母樹の一部(21本)を伐採。
- ②伐採後の萌芽発生は、21伐根のうち9伐根(9月時点)。

③なお、今回の伐採は、支障木(伐採に伴って損傷や事前伐採が避けられない木)の発生する恐れがあるものを除いたが、来年度はこのような母樹の伐採も検討。

##### 【その他】

- ①再生活動地でのオオハンゴンソウ(特定外来種)とアメリカオニアザミ(要注意外来種)の除去を8月に試行。

②来年度は、オオハンゴンソウ等除去の本格実施を検討。

#### ○外来種対策



(ニセアカシア母樹の伐採)



(オオハンゴンソウ)



(アメリカオニアザミ)

### 3 森林再生の状況

#### (1) 調査手法等の概要

①森林生態系の再生状況を把握するために、平成19年3月に策定した「野幌自然環境モニタリング調査方針」に基づく科学的調査を実施（まずは5年連続、当面10年間実施）

##### ○モニタリング項目

- ・植生（植栽木を含む）・・・プロット調査
- ・歩行性甲虫・・・ピットフォールトラップ調査
- ・木材腐朽菌・・・子実体採取による種同定
- ・動物（中大型ほ乳類）・・・自動撮影装置による夜間撮影

##### ○モニタリング対象地

- ・森林再生活動地（植栽地）
- ・良好な自然林
- ・風倒木を搬出したが植栽していない箇所（半処理区）
- ・風倒木を搬出せず植栽もしていない箇所（非処理区）

ただし、動物撮影については、野幌国有林の全域を網羅するよう12箇所に装置を設置（夏、秋）

②鳥類については踏査項目にはないが、今年度、野幌で調査をすすめている研究者との協力関係を構築し、第8回検討会に招聘。

③NPO法人EnVision環境保全事務所の協力により、来年度、野幌自然環境モニタリング調査に関する一般向けのパンフレットを作成する考え。

#### ○野幌自然環境モニタリング検討会（平成18年3月～）

##### 委員

- 春木雅寛（北海道大学大学院地球環境科学研究科准教授）
- 平川浩文（森林総合研究所北海道支所森林生物研究グループ長）
- 堀 繁久（北海道開拓記念館資料情報課長・学芸員）
- 村野紀雄（酪農学園大学環境システム学部教授）
- 矢島 崇（座長：北海道大学大学院農学研究科教授）

（五十音順）

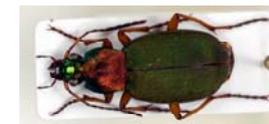
##### 開催経緯と検討テーマ

- 第1回（18.3.9）～4回（19.3.1）：調査方針の策定
- 5回（19.10.5）：良好な自然林の現地確認等
- 6回（20.3.6）：19年度調査結果を踏まえた再生段階の検討等
- 7回（20.9.24）：半処理区等の現地検討
- 8回（21.2.25）：20年度調査結果を踏まえた再生段階の検討

#### ○歩行性甲虫の例



（オオルリオサムシ：森林性）



（アオゴミムシ：開放性）

## (2) 調査結果から見た森林再生段階の評価

(第8回野幌自然環境モニタリング検討会より)

①植生については、

- ・植栽木については昨年と同様かそれ以上の成長がみられること
  - ・高木性樹種の天然更新がさかんであること
- 等から、回復は順調(第2段階に近づきつつある)。

②一方、

- ・歩行性甲虫相は、畑などに見られる開放性のものが依然として多くみられること
- ・木材腐朽菌相は、風倒被害木の落枝や伐根等に依存するものが多いこと

等から、森林の再生段階はまだ初期段階(第1段階)であり、植生回復状況とは必ずしも連動しない状況。

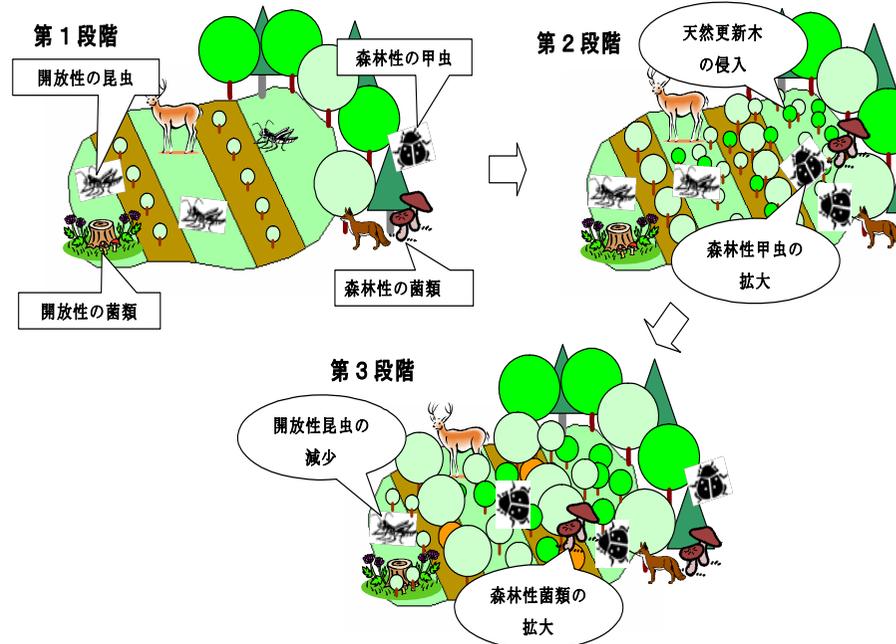
## (3) 動物調査結果について

①森林再生に大きな影響を与えるエゾシカについては、昨年並みの撮影頻度。植栽木や天然更新稚樹の被食率は0.4%。

②アライグマ(特定外来種)も大きな変化は見られない。アライグマ駆除実施機関と研究者に今年度までの撮影データを提供。

③北海道ほ乳類観測ネットワーク(森林総合研究所北海道支所&北海道環境科学研究センター)の構築のため、7月、他のふれあいセンター等を対象に、動物調査手法の研修会を開催。

○モニタリング調査方針において想定している森林の再生段階



○動物の自動撮影結果(鳥類とネズミ類をのぞく: 秋季撮影分)

	19年	20年
エゾシカ	0.03	0.01
キツネ	0.28	0.80
タヌキ	0.02	0.06
アライグマ※	0.12	0.09
イタチ※	0.01	0.00
ネコ※	0.04	0.22
ユキウサギ	0.04	0.04
エゾリス	0.03	0.10
コウモリ類	0.05	0.10

注1: 撮影24時間あたりの撮影枚数

2: ※は外来種を示す

#### (4) 高齢人工林の現況把握

①人工林から自然林への移行過程を把握するために、今年度、明治から昭和初期までに植栽された旧野幌試験林(人工林)を踏査。

②来年度、これら高齢人工林の本格的調査に着手することを検討。

#### (5) 市民参加によるモニタリング

①野幌森林づくり塾のプログラムの一つとして、植栽木の生育調査を実施。

②森づくり参加団体による植栽木の調査は、今年度9団体に増加。

③来年度は協定最後の年度であることから、残り3団体に対しても働きかけを強める考え。

### 4 市民団体等との連携による生物多様性関連情報の収集

#### (1) 市民団体の行うクマガラ調査の支援

「野幌森林公園を守る会」が実施する市民ボランティアによるクマガラ調査について、調査員募集の支援を行うとともに、調査に参加(平成21年3月)。

#### (2) 研究者と連携したエゾシカ調査

酪農学園大学の研究者と連携をとりながら、積雪期のエゾシカの痕跡調査を実施(平成21年2~3月)。

○旧野幌試験林の一例



(昭和8年トドマツ植栽地)

○生物多様性関連情報収集



(エゾシカによる樹皮食い跡：北広島国有林)

## 5 森林環境教育活動等の実施

### (1) 平成20年度に実施した森林環境教育活動等

- ・実施回数：34回
- ・対象者数：約840人

(植樹指導、野幌森林づくり塾等を含む)

### (2) 主な事例

#### ①公開講座「野幌の今を知る」の開催

モニタリング調査結果を始めとした野幌の自然や森林再生活動等の状況を市民に広く知ってもらうため、北海道開拓記念館等との共催により市民向けの講座を開催。

- ・日時：平成20年5月18日(日)
- ・参加者：約120名

#### ②野幌森林公園プロガイド養成講座の支援

NPO法人アースウィンドの開催した講座を一コマ担当し、野幌の森の管理について講義。

- ・日時：平成20年5月23日(金)
- ・参加者：9名

#### ③地元小学校を対象とした森林体験学習会

北海道林業技士会と連携して、苗床での種まき、枝打ち作業、草花のビンゴゲーム等を実施。

- ・日時：平成20年5月28日(水)
- ・参加者：約140名

### ○森林環境教育活動等



(公開講座)



(歩行性甲虫調査体験)



(小学生による苗木づくり)

## 間伐前野生生物調査の実施について

平成 2 1 年度より、野幌森林公園内の間伐予定箇所を対象に、市民団体の協力を得ながら生息・生育する野生生物を確実に把握し、野幌の森の生物多様性保全と間伐の推進を着実に進めていく考え。



野幌森林公園「森林再生ふれあいプロジェクト」  
 (略称)野幌プロジェクト  
 グランドデザイン

基本的事項

～都市と大自然の接点～ 野幌の100年前の原始性が感じられる

天然林：100年前の原始性が感じられる森として保護育成

人工林： 生物多様性の保全を志向（将来的には自然林に誘導）  
 風倒被害を受けた箇所は市民参加型の自然林に戻す森づくりを展開

都市と大自然の接点としての魅力アップのコンセプト

野幌の森の保護育成  
 ・生態系そのものに注目して積極的に保全  
 ・多様な生物相に着目した現況の把握

野幌の森を保護育成するゾーン

野幌の森を楽しむ・学ぶ空間の形成  
 ・自然に親しむ森林の場づくり  
 ・森林環境教育プログラムの充実  
 ・指導者の養成

野幌の森を楽しむ学ぶエリア

野幌の森の魅力を高め、持続させる多様な主体の参画  
 ・市民・ボランティア・NPO・学校・企業等の参画

野幌の森をつくるエリア

積極的な保護育成とエリア区分による利用

プロジェクト達成に向けた取組内容

長期：野幌の100年前の原始性が感じられる森づくり  
 自然環境モニタリング体系の検討・基本方針の策定  
 多様な生物相に着目したモニタリング調査の実施

中期：人工林での生物多様性のある森づくり  
 生物多様性の保全に志向、リストアップし自然林に誘導  
 風倒被害森林での森林再生の試験地の設定

短期：風倒被害地での森づくり・魅力の発信  
 市民参加型の郷土樹種での自然林に戻す森づくり  
 野幌森林環境教育プログラムの開発・実践 等

野幌プロジェクト  
 フォローアップ委員会

モニター・評価の実施  
 継続的・定期的に情報収集  
 結果分析、必要に応じプロジェクトの軌道修正に反映  
 現状改善の評価